

豊岡宮本横穴群

見て触れて感じるふるさとこの歴史

整備された横穴群

平成15年10月に発見された史跡 豊岡宮本横穴群の整備が、今年3月に完了しました。

横穴とは、がけ面に横から穴を掘ってつくられたお墓です。この豊岡宮本横穴群は、古墳時代後期(約1500年前)の有力者の家族墓で、約9万年前の阿蘇山噴火による火砕流でできた凝灰岩の岩盤につくられています。合志市豊岡の竹迫日吉神社北側にあり、正面にはホタルの住む塩浸川(芋扱川)が流れています。川沿いのがけ崩れを防ぐ工事の際に見られ、発掘調査、保存・整備工事を経て、現在は見学路や説明看板が整備されました。

多くの副葬品が出土

発掘調査の際、12基の横穴が確認され、多くの副葬品(お墓に納めるアクセサリー類)や人骨が発見されました。横穴は、壁面に向かって右側から順に1号墓、12号墓と番号をつけています。

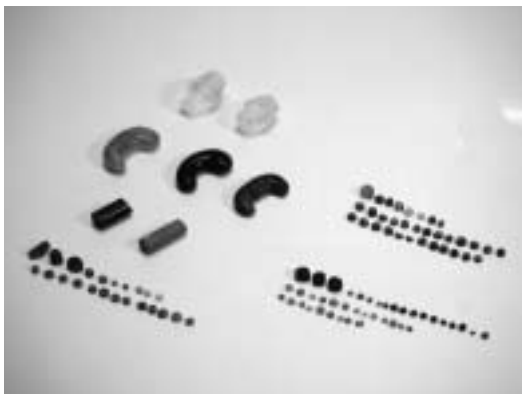
12基の墓室(お墓の中の形状)は大きく分けて3つのタイプに分類されます。保存工事ではそれらの特徴を示す横穴を一つずつ、計3基公開し、残り9基は横穴の存在がわかるかたちで埋め戻して保存しました。公開されている3基のうち、2号墓と3号墓は残り具合が良いことから、公開が決められました。7号墓は発見の際に工事で大きく削られてしまいましたが、横穴内部の構造が確認しやすいという理由



整備が完了した豊岡宮本横穴群



横穴内部 (12号基上部から)



玉類



金環



中の状況を見学できる

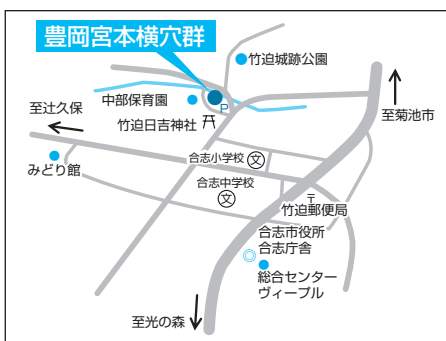


11号基 人骨が出土

貴重な文化遺産

豊岡宮本横穴群は、当時の周辺地域における葬儀の形態や風習についてうかがい知ることができ、貴重な遺跡として、平成17年に旧合志町の指定史跡となり、現在は市の指定史跡となっています。現地では、写真付きの説明看板が設置され、穴の入り口をのぞけば内部を見ることが出来ます。出土品は、「ヴィーブル」3階の合志歴史資料館で8月7日から公開します。見学や学習会などで詳しい案内が必要な場合は、生涯学習課までご相談ください。

わたしたちのふるさと、合志市のながい歴史の中で営まれてきた祖先の生活を、間近で見て、触れて、感じてみませんか。



問い合わせ先

生涯学習課(御代志市民センター)
☎(242)1190